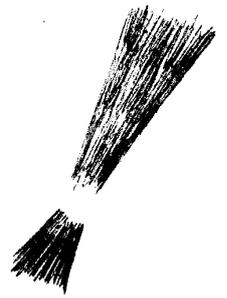


幻想を打ち破り

斗争を準備せよ!



本日の団交に結集した全ての学友諸君!

農学部四年生連絡協議会は、固い連帯をこめて本日の斗いを階級的視点からみた農学部教授会の厂的犯罪性を暴露し、確認し、幻想を打破し、決意を打ち固める斗いの場であると提起する。

戦后の《プロレタリア革命か資本主義の復活か》そして65年当時の《プロレタリア革命か帝国主義の復活か》に向われた時代を経て、現実の《プロレタリア権力樹立か帝国主義確立か》があり、日帝の本質である侵略を具体的に韓国、台湾を足場として開始している。東南アジア諸国への空済借はその良い指標である。韓国に於いては米帝の市場占有率を上回り、圧倒的に米帝のアジア支配の覇権を肩代りしつつある。日帝の「大東亜共栄圏」の復活を画策しているのである。一方、侵略の為の内政策として、中教審答申の立法化があり、大管法がなしくずしの適用がある。そして、現実の農業の斜陽化がある。明確に資本の動向と合いまって「国内に重化学工業を」「後進国に農業を」なのである。そうした資本の論理にのっついてきたのが農学部教授会なのである。《社会学部への転部なる案》がそうではなかったか。設備投資の生しおしみからの《大量入学》事件がそうではなかったのか。われわれは叫ぶ《教授会解体》と、現在までの、数々の厂的な農学部教授会の犯罪を徹底的に暴露し、宣伝し、1年次生が持つてゐるであろう幻想を徹底的に撃破し、斗いの決意を打ち固めよ!

斗いこそが最良の宣伝であり、武器である。今こそ、斗争を準備し、斗いの火蓋を切る時だ! 一つの火花も野原を焼きつくす力のあることを示せ! 全共斗を組織し、斗争を展開せよ!

団交勝利の為に、

(農)四年生連絡協議会(準)

5月、15日